



こども若者応援団 9月講演会 岡本圭太さん お招きして

第2回応援団会議を横須賀市の市民活動サポートセンターで開催しました。世代も課題も超えて6人が集まり、あっという間の快適な2時間でした。まずは自己紹介。高橋さんは障壁の相談ボランティアを、山本さんは子育てボランティア、川辺さんはアンガージュマンの昼食ボランティア、新井さんは人との出会いを求めて進行形、石渡さんは高校生の良き父親、& 僕。素敵だなと思った瞬間は、みなさん一人一人の語り笑顔で傾聴している姿を見た時。一番若い新井さんが「楽しかったです」と。その後は9月講演会を決定。横浜サポートステーションの岡本圭太さん(著書「人並みへの憧れ」「今、考えること」 横浜サポートステーション相談員)お呼びすることになり、楽しみです。トークイベントですが、様々な手法で楽しい時にしたいです。できれば音楽や映像があたりすると最高! ?
6月30日現在、こども若者応援団会員32人 寄付収益242,000円 感謝!

10人の相談を受け 穏やかな時間を過ごすことから

Aさん・Bさん母子が江ノ電七里ヶ浜駅から歩いてきてくれました。2組4人の方には道に迷わせごめんください。滝田の七里ヶ丘研究所に来ていただくことに、僕自身が慣れてきた感じが正直なところ。来所頂く方には、ととても疲れる時間を過ごすのだろうと思い、時には穏やかに、時には思いを入れてと工夫を無意識下でしています。若者にとっては外に出る苦痛を感じているのではないのでしょうか。心から“ようこそ!”の思いでお迎えています。一方、訪問も有意義な時間だと実感するようになりました。いまでもよけいなお節介りの自戒をします。横浜のCさん、横須賀のDさん、2軒を訪問して心から充実した時間を持たせて頂いたことに感謝です。若者に会える会えないはありますが、若者が過ごす家の空間と時間を共有できる喜びを感じられるようになりました。緊張感と新鮮さを合わせ持つ感覚。とは言いつつ、若者自身は緊張と苦痛を感じていることを推測し、訪問が余計な圧力や介入にならないように心がけてはいます。が、果たしてトホホ…。



左から 高橋、滝田、山本、川辺、新井、石渡(敬称略)

親子と会える時間 *** の意味

Aさんの登場には正直感動でした。就職に焦って、相談会や履歴書を持参する直前になるとスルーしてきました。一生懸命、頑張ろう! 頑張ろう! と思えば思うほど、足が動かなくなります。そんなことを何度も何度も繰り返しています。僕自身が圧力となっていたとの反省もあり、半年会えなくなりましたが、再会でした。道に迷ってはぐれてしまった母を必死で探す姿は感動。母への感謝の気持ちを伝えるのも難しいのですから。今回の話は、親子が仲良く過ごすこと、こどもが母親を支えていくことが、結局大きなテーマとなりました。安心できる家庭を作ると確認して笑顔で別れました。Bさんはここ1年ほど居場所を使っていますが、いつまでたっても慣れません。1時間いるのがやっど。「1時間のために往復2時間かける?」「次へのステップを期待していたが情報にも巡り会わなかった」と自分を説明するBさん。自分の緊張感や肯定感の不足を素直に自己観察、同時にそこに拘り解放されない苦しさを実感してしまうとも言葉にします。家でも兄弟関係での煮詰まり感、外出しても帰宅する緊張関係に萎縮している自分を実感! と。

言葉にすること 覚悟すること? Cさんとは会えませんでした。母親が呼びに行くといれに閉じこもりました。実にお邪魔虫、僕は。母親と話すと、何も言わず顔を合わせないCさんに両親とも嫌われていると思っていました。それは誤解と僕は話しました。確かに「外に出て」「学校・仕事に行って」「どうしたいか言って」の親の一言に傷ついています。でも親が嫌い? ではありません。「うるさい、しつこいなー」と感情的になりますが、自分の心が悲しくなるのです。うるさいしつこく言われる“自分”が重たくなり“自分”が嫌いになるのです。言葉も出ません、説明もできません。母親は笑顔を取り戻してくれました。後日談、「日曜日にゆっくり話しました。(こどもは)涙をぼろぼろこぼしながら辞めたいと話してくれました…ずいぶん明るくなってご飯作ったりストレッチしたり」と母親からメールを頂きました。Dさんは感受性が高く、音に敏感です。皮膚感覚にも優れています。母親の存在が邪魔、言葉も足音も、さらに寝返りも? シングルマザーの母親は父親役もやり、Dさんにとっては二役を演じる母が叱咤激励している! と…。少し別居しようか? の投げかけに、「前からそう言った。(遅いけど)高校へ行って一人住まいする」と。この急展開の発言に、果たして空気が張りつめたのか? よどんだのか? 母も僕もハーと言う感じ。「生きていてくれれば」との言葉は、死去され残された人が語る言葉ではなく、生きているからこそ互いに大切にしたい言葉です。こども若者を攻撃し刺激せず、互いに仲良く生きることを模索したいと、僕は心から思っています。生きていることは奇跡であり希望です。人は“人”とてあい“人”になる…のですから。

コラム風 「報道の在り方について」 ※寄稿いただきました

安倍政権のもとで最大10%の生活保護費を削減するとの報道や、兵庫県小野市では、パチンコ等ギャンブルをしていたら市民が市に対して情報提供を責務とする条例が3月27日に可決。このように最後のセーフティネットである生活保護制度に対して厳しい風当たりがここ最近多いように感じる。このような状況で6月には平塚市でケースワーカーが生活保護費を男性に渡さず、栄養失調になり問題になった。発見が一步遅れていたら男性の命はどうなっていたのかと思うゾッとする。この背景には様々な問題があるだろうが、私が報道から思うことは低賃金で働きぎりの生活をしている(もちろん汗水流し働く人が困窮する生活は是正すべきであるが)、また老齢年金だけを頼りに生活している人々からの生活保護は優遇されすぎているとの声、生活保護費のたった0.5%の不正受給がさも蔓延しているかのような報道を巧みに利用し、行政や政府が生活保護費の削減や受給制限を図ろうとしているのではないかと。転じて、我が国は毎年約3万人もの自殺者が存在しながら、震災等に比較して多くは報道されない。さらに、約1000兆円の国債残高があるので、消費増税をと、これも同様、国の資産がどのくらい存在するのかはほとんど報道されず消費増税の道具にされている。報道なので偏り等を感じるのは当然であるが、多くの国民は国には多くの債務が存在し増税やむなし、生保削減も同様にと感じているのではないか。(S 男性・32歳 通信制大学在学中)

命(ぬち)どう宝 摩文仁の丘に石碑建立 沖縄出会いの旅

今年僕はマンマーに行った。実に刺激的だった。そして6月、沖縄に出かけた。僕に教育ではなく、子ども若者と共に生きることを導いてくれた、沖縄大学学長加藤彰彦さんと再会するために。その加藤さんが沖縄で石碑“命(ヌチ)どう宝”を建てると言うのだから、行くしかない。8月生まれの僕は暑さには強いと自負？ 果たして…まいった！！ レンタカーを借りずに今回(5回目)はバスで移動しようと思ったからだ。那覇から摩文仁の丘の平和祈念公園へ行くには糸満で乗り継ぐが、1時間に一本しかバスはない。暑さももちろんだが、時間がかかる。都会暮らし感覚はサヨナラ！だ。6月9日(日)は晴天、実に暑い。除幕式は上原エミさんの熱い司会で始まった。加藤さんが挨拶し、糸満市長の上原氏の祝辞もあった。宮廷に捧げる琉球踊り、ブクブク茶(お菓子も)が振る舞われた。自らの思いで碑を建てる尊い思い。命(ぬち)どう宝碑除幕式 **開会ご挨拶 石原エミさん**



「6月9日、今日から世界平和の日だと確信しております。この命どう宝の日をずっと願ってまいりまして、8年が経ちました。苦しい時もつらい時もありましたが、今思うとあつという間の感じも致します。平和を願う皆様を支えられて、今日を迎えることは夢かなと思うくらい幸せです。ありがとうございました。世界平和は一人ではできません。私は一粒の麦の種をまきました。世界が平和になり、戦争も紛争もテロもない、自然を破壊することもなく、人々が支え合って幸せな毎日が送れるように、日々願っております。命どう宝、命こそ大切な宝でございます。私は平和の礎に6名の肉親が入っています。今日を迎えられることを、夢かなと思うのです。平和記念像は女の神様。こちらは太陽の神様、王様です。王様と女性の琉球の神様両方で、この広い敷地を守らないといけないという天からのメッセージで私はこれに導かれて来ました。今日から本当の世界の平和の幕開け、生まれ変わります。世界が平和に。ありがとうございました。」

代表 加藤さんのあいさつ 「南の島、琉球沖縄の摩文仁の丘に 命どう宝の碑を建立することができました。この日のためにご尽力いただきましたお一人おひとりに感謝申し上げます。この石碑は小さなものですが、ここに込められた沖縄県民の思い、その思想は時代を超え、国の違いを超えて世界各地に広がっていく信じております。水と緑そして大地によっておおわれたこの地球に生を受けたこの私たちは、何よりも命を大切に、お互いの命をいつくしみつつ、生きることによって末永い生命史を受け継いで行くことができます。一つ一つの掛け替えない命が、自分の命の花を精一杯開かせながら、支え合っていくことが私たちの役割だと思えます。今から68年前、沖縄は目を覆うばかりの地上戦に巻き込まれ、4人に1人が亡くなるという鉄の暴風雨の体験をすることになりました。20万人を超える方々が尊い命を失い、大切な人々失った悲しみは今も癒えることはありません。しかし戦争は終わりました。私たちは二度と戦争の時代、争いの日々を作ってはならないと誓い合いました。しかし今も沖縄の基地はなくなり、戦争の不安は消えておりません。私たちは琉球、沖縄の先人たちが言い伝えてきた「命こそ最高の宝である」と言う言葉を、この平和の礎のある摩文仁の公園の入り口に建立し、その意味をかみしめ、この地を訪れる方々に伝えたいと思います。この石碑の建立には、沖縄県中山知事、沖縄県議会の皆様方、上原糸満市長はじめ糸満市の皆様方のご支援がありました。今日は特に上原市長は大忙しい中ご出席を頂き、本当に感謝の気持ちでいっぱいでございます。また実行委員会の皆様方ありがとうございました。なお、この石碑の裏には日本語・英語・韓国語・中国語の「戦争は終わった。平和は人の心で作る。命こそ究極の宝。」が刻まれております。翻訳にご尽力をいただきました沖縄尚学学園の名城理事長と先生方等に、また立派な石碑を作っていただきました石材会社の皆様方にも感謝を申し上げます。6月23日には慰霊の碑ですが、この日には安倍首相をはじめ日本政府の方々、アメリカをはじめ世界各国の方々がこの日に訪れます。この命どう宝の碑の前も通ることになります。戦争のない平和なお社会が来ることを、平和を守りつくることを、私たちはこの平和の礎に眠る多くの方々と共に祈りし、私たちも日々努力していくことをお誓いし、本日の除幕の式のごあいさつといたします。」



石碑裏の文章

加藤彰彦さんインタビュー 沖縄を 子ども若者を そして人と人をつなげ 直観力に生きる

滝田「今日、幾つもの沖縄の話聞く場面に出会いありがとうございました。」
 加藤「これはなかなか伝えきれない、どう表現しているのか悩んでいるのが実態でしょうか。どういう形にするか、誰に入ってもらうかで多様に進みます。今回の石碑もようやく実現しました。」
 滝田「8年ほど前でしょうか？文科省・神奈川県主催で加藤さんに講演をいただき、後半は加藤さんと県教委部長と和田・西野さんとディスカッション。その席で部長が『必ずしも不登校の子どもの学校復帰を願ってない』と言っていましたね？」
 加藤「そう言えちゃった。人間だからね、本当は良いことをやりたいんですね。沖縄でも子ども達が就職したい、レベルアップで安定した社会のため皆で協力していったらいい。お互いに奪い合うのではなくてね。でも行政とのつながりが一番難しい。」
 滝田「沖縄の外から来て学長になり、地域で様々な新しいことをやられている。ご苦労があったのでは？」
 加藤「そういう点では気負いが無いことかな。そして人と人との出逢いを大切にして、何度も顔を合わせ時間をかけて物事を進めて来たことですね。特に昨年、映画「ひまわり」～沖縄は忘れない、あの日のことを～を成功させる沖縄県民の会代表を受け、不可能と思っていた資金繰りが出来てしまう経験もしました」
 滝田「人と人のつながりが、独特の沖縄の文化の凄さに支えられている感じがします。今日出会って話を聞かせて頂いた、石碑の石原さんは歌手、石川さんはひとり芝居」
 加藤「女性は凄いです。靈感も凄いです。石原さんは大学で授業中『そこに兵隊さんがいる』と。」
 滝田「島根さん(2号参照)も同じような話をしていました。僕もお近づきになる女性に自然人的な感じを受けてます。」
 加藤「人間の知的なものではなく直感、直感とは総合的な力ですから、が問い直されている。宇宙全体の動きを感じて生きていく。本来人間はそうだった。放射能も、遺伝子(問題)も生命力を弱め壊していく。命そのものの発動で生きていく。そう言うことを感じられる人と理念だけで生きていくと違が出てくる。何か起こる予感、今日どうしたらよいか！ 直観力です。」
 滝田「ある種の直観力にふたをして教育を進めているんでしょうか？」
 加藤「不登校がまさにそうですね。(教育に)つづされた子ども達。その先に仕事ができる場をどう作るか、僕は農業と思う。」
 滝田「自分の直観力を大事にし社会と折り合いをつけている若者がNPOで歩んでいます。」
 加藤「そうですね。僕も離島に若者たちと住みたいと思っている。」完
 (お忙しい一日を送り空港まで送っていただく気遣いに感謝。笑顔でお別れしました。)

ご案内 (研究所は駐車場は2台分あります。電車の方は駅までお迎えします。事前にご連絡ください。)

右の日程で進めます。相談のお申込みはいつでもどうぞ。連絡先は携帯(09072124055)へ。応援団会議は9月の講演会の役割分担など実施要項を具体化します。お時間のある方は実行委員会へ参加ください。チラシ配布、当日の受付・司会・会計等、一緒に活動しませんか。会場は未定です。	6月の開所日程			
	1日(月)	相談(予約済み)	18日(木)	相談
	4日(木)	相談	22日(月)	相談(予約済み)
	8日(月)	相談(予約済み)	25日(木)	相談
	11日(木)	相談(予約済み)	29日(木)	相談
応援団会議 7月30日(水) 午後2時～3時 横須賀市市民活動サポートセンター(京急汐入駅)				